

活動の柱

- 1 青少年の体験活動の促進
- 2 青少年団体の育成と支援
- 3 青少年に望ましい地域づくり
- 4 青少年に関する相談と対応
- 5 青少年に関する調査と情報提供



神奈川県青少年指導員だより

第65・66合併号
— 2022年3月 —発行 神奈川県青少年指導員
連絡協議会
発行者 市丸 克己
連絡先 045-210-3848
神奈川県青少年課内

第65・66合併号



青少年指導員の皆様におかれましては、日頃より青少年の健全育成に向けた施策へ御協力をいただき感謝申し上げます。本年度も前号同様、新型コロナウイルス感染症の影響により合併号となりましたが、「地域活動報告」などコロナ禍での活動も掲載しておりますので、活動の参考になれば幸いです。

コロナ後の社会に向かって



神奈川県青少年指導員連絡協議会 会長 市丸 克己（相模原地域）

青少年指導員の皆様におかれましては、各地域における青少年の健全育成に御尽力いただき、厚く感謝申し上げます。

本来であれば、第53回神奈川県青少年指導員大会（横須賀大会）の場において、皆様の一人ひとりのお顔を見ながら、コロナ禍における苦労話やコロナ禍でもこんな活動ができたよという嬉しくなる話を聞いてみたかった思いもありますが、新型コロナウイルス変異株の出現など、感染者が急拡大する中で延期という判断に至りました。

今日まで、前例のない状況の中、横須賀大会の準備をしていただいた実行委員会の皆様には、感謝申し上げますとともに、令和4年度の横須賀大会開催を承知していただいた県西地域の皆様にも感謝申し上げます。

今号の「つばさ」は、コロナ禍における各地域の活動などを御紹介させていただいております。皆様の活動の一助になればと思いますので、是非とも目を通していただければと思います。

我々の活動は、地域の人と人との絆をつなぎ、心豊かな青少年を育む活動です。このコロナ禍という、人と人との関係が希薄化する中、我々の活動には多くの期待が寄せられるものかと思えます。青少年健全育成の灯は決して消さないという気概を持って、皆さん取り組んでいきましょう。引き続きよろしく願いいたします。

令和4年に向けて準備万端！第53回神奈川県青少年指導員大会（横須賀大会）



神奈川県青少年指導員大会 実行委員長 織田 俊美（横須賀三浦地域）

令和元年度に第53回神奈川県青少年指導員大会（横須賀大会）の大会実行委員会委員長を拝命いたしまして、異例の3年目を迎えることとなりました。

これまで、実行委員会では大会が開催できるのかできないのか、不安な中、一人ひとりの熱い思いを形にし、準備を進めてまいりました。

横須賀大会は、新型コロナウイルス変異株の影響を受け、令和2年度に続き、令和3年度も延期となりました。さらなる延期ということとなり、じくじたる思いもありますが、これまで、大会開催に向け準備に従事していただいた大会実行委員会の皆様、また、令和4年度に開催を予定されていた県西地域の皆様には心から感謝申し上げます。

さて、ここで、令和3年度に予定していた横須賀大会のプログラムを少しばかり披露いたしますと、オープニングには、アメリカ合衆国海軍第7艦隊音楽隊ブラスバンド、講演には、旅人・エッセイストでいらっしゃる“たかのてるこ”氏を迎え、生きることへのすばらしさを伝えていただき、風光明媚な2市町（三浦市、葉山町）による活動事例、そして、受賞者記念品には横須賀海軍カレーを用意し、準備を進めてきました。

どうでしょうか。令和4年度横須賀大会への御期待は膨らみましたでしょうか。

まだまだ、新型コロナウイルスの感染拡大には予断を許さない状況が続いていますが、令和4年度も皆様の期待に応じるプログラムを用意し、安心安全にお越しいただき、また横須賀に来たくなる、そんな思いを共有できる青少年指導員大会の開催ができればと思います。

横須賀大会は、すでに準備万端です。皆様のお越しをお待ちしております。

地域活動報告

本号では、横浜市・川崎市・相模
ます。また、コロナ禍での指導員
ので、御紹介します。



横浜

神奈川区青少年指導員実践型研修会

——— 神奈川区青少年指導員協議会 編集部会長 佐藤 裕

青少年指導員を対象に、活動するうえで必要な知識や体験などを経験・吸収することを目的とした実践型研修会を開催しています。

近年はコロナ禍で開催を順延していましたが、今期は令和3年12月に三浦海岸でゴミ拾いを行いました。快晴に恵まれた冬の海岸は、一見きれいに見えたが、指導員39名による2時間程の活動後には、57kgのゴミが集まり驚きました。なかでも海洋汚染で問題になっているプラスチック類が多く、小さく形を変えてマイクロプラスチックとして砂浜に混じっています。また、たばこのフィルターは、分解されずそのまま残っており、空き缶は埋められている有様です。一人ひとりの何気ない自然への甘えは、大きな環境破壊につながることでしょ。青少年指導員として活動することで、様々な気づきが得られます。体験を通して地域にフィードバックすることで、個人レベルからの意識改革に少しでも貢献できるようにこれからも取り組んでいきます。



●実践型研修会の様子

コロナ禍での大変だったこと…「**コロナ禍でのイベント実施検討と感染症対策**」



川崎

3密防止でパークゴルフ体験！

——— 高津区青少年指導員連絡協議会 副会長 小野寺 善平

高津区青少年指導員連絡協議会は高津・橘の2地区の青少年指導員会で構成されています。

毎年実施している両地区合同研修会、今年はパークゴルフ体験会でした。コロナ禍で会議も含めて活動が制限される中で、こんな状況でもできることはないかと思案していたところ、密にならずにできることとして、区内にある多摩川緑地での活動はどうかとの提案が企画担当からありました。

行事企画委員会の皆さんで企画を具体化し、11月21日(日)の研修会当日は天候にも恵まれて無事に開催することができました。1組4人の6チームでいざプレー開始。パークゴルフ場の御厚意で各チームにインストラクターをつけて頂きアドバイス頂きながらプレーができました。簡単そうに見えて、結構難しく奥が深いパークゴルフ、子ども達にその楽しさを伝えられるよう全力プレーで皆さんと盛り上がりました。

コロナ禍が落ち着いたら子ども達とプレーがしたいです。



●プレー終了後の集合写真

コロナ禍での大変だったこと…「**活動の場が減り指導員同士で会うことが難しくなったこと**」



相模原

地域のふれあいのためにできること

——— 相模原市青少年指導委員連絡協議会 副会長 齊藤 一城

いま、青少年指導員として何ができるか・・・相模原市青少年指導委員連絡協議会ではこの困難な状況下、明日のために活動を続けています。

その一環として、子ども達とより楽しい体験をできるように、また自分達のスキルアップのために、地域ごとに研修会を開いており、先日は、市内南部のグループで「かんたん工作」の研修会が行われていました。



●完成したランタン

研修会の企画、準備も自分達で行います。何をやるかを検討し、内容が決まれば準備や試作を行い、研修会に備えます。今回は、ハロウィン風のランタン作り。市販のLEDランタンに紙粘土で肉付けし、目や口をくり抜いて色付けすれば、子どもでも簡単に楽しくハロウィンのランタンができちゃいます。

今は我慢の時ですが、ここでの経験が実践できる時を信じて頑張っています！



●研修会の様子

コロナ禍での大変だったこと…「**(青少年と接するのに) 今までは3密を心がけていたのが真逆になりました**」

原市・横三地域・県央地域・湘南地域の活動について掲載している活動で大変だったことについて、一言ずつ寄せていただきました



子どもデイキャンプ実施について

鎌倉市青少年指導員連絡協議会

鎌倉市青少年指導員連絡協議会として、新型コロナウイルス感染拡大の影響で自粛による制限を受けている子ども達に、自然の中で身体を動かすことのできる機会を提供すべく「え？キャンプに行かないの？」を企画しました。



●ネイチャーゲームの様子



●ディスクゴルフの様子

3密状態になることを避けるため、子ども達の集合時間に時差を設け、各自受付を済ませたのちにディスクゴルフとネイチャーゲームに分かれました。ディスクゴルフは、自作したディスクを赤、青、黄色それぞれのキャッチャーに目掛けて投げ、チーム毎の投数を競いました。また、ネイチャーゲームでは、鎌倉中央公園の地図と磁石を片手に、トレジャーカードに記された6つのミッションのクリアを目指し、ミッション達成の充足感をチームで味わっていました。持参したお弁当を食べたのち、ディスクゴルフ班とネイチャーゲーム班を入れ替えて楽しみました。

全てのゲーム終了後、少々レクリエーションを楽しみ、最後に各チームの成績発表をする表彰式を行いました。今後の状況下においても、どのように子ども達に喜んでもらえるイベントを開催するかについて模索を続けてまいります。

コロナ禍での大変だったこと…「安全基準がわからず実施判断が困難でした」



子どもたちを中心に地域をつなぐ

愛川町青少年指導員連絡協議会 会長 吉田 寿

愛川町の青少年指導員は22名で、地域の青少年健全育成を進めるパイプ役として、オール愛川体制で活動しています。コロナ禍においても、今できることを考え、感染予防対策を講じ、主催事業の実施、町事業への協力、他団体との連携等に取り組んでいます。

6月の青少年健全育成者研修会では、青少年育成に関わる方々とともに、3部入れ替え制で、①アイスブレイキング&ネイチャーゲーム、②バルーンアート、③火おこしを学びました。地域の活動で生かせる指導技術の向上を図るとともに、横のつながり確かめることができました。



●「ジュニアフェスティバルあいかわこどものまち」の様子

また、ジュニアリーダーの育成にも力を入れています。ジュニアリーダーが企画運営するイベントとして、7月に「ふれあいの村で遊ぼう」、11月に「ジュニアフェスティバルあいかわこどものまち」を実施し、生き生きと活躍する姿を見ることができました。今後も地域の皆さんと協力して、子ども達の健やかな成長を支えてまいります。

コロナ禍での大変だったこと…「つながりを保ちたい一方で活動方法に悩みました」



コロナ禍でのイベント事業

伊勢原市青少年指導員連絡協議会 副会長 亀井 道行

伊勢原市青少年指導員連絡協議会は、現在98名が集まり、体験学習や工作教室の開催、地域パトロールといった活動を行っています。

しかし、感染症拡大に伴い、様々な活動やイベントを行えない状況が続きました。当協議会では、コロナ禍においてできることを検討した結果、「おうちで工作」と題し、工作の説明書と材料をセットにした、工作キットを配布し、自宅で工作を楽しんでもらうことにしました。

これには予想を大きく上回る反響があり、令和3年3月に「クルリン(※)のおめん」、8月に「クルリンの簡単ランタン」、10月には「ハロウィン簡単ランタン」キットを、計445個、届けることができました。

本来であれば、直接子どもたちの笑顔が見たいところではありましたが、自由な発想で完成させた子ども達の作品の投稿写真を見るたび、工夫して事業を開催してよかったと感じました。

今後も事業を工夫して、地域と親子のつながりづくりを進めてまいりたいと思います。



●クルリンの簡単ランタン

※クルリン…伊勢原市公式イメージキャラクター

コロナ禍での大変だったこと…「青少年と指導員双方の安全対策を図れる事業を計画すること」

青少年指導員の活動にクローズアップ！

放課後かまくらっ子

鎌倉市青少年指導員連絡協議会

広がる活躍の場！！

鎌倉市青少年指導員連絡協議会では「放課後かまくらっ子」の中の活動の1つとして「ディスクゴルフ」を実施しております。

ディスクゴルフとはゴルフボールではなく、ディスク（円盤）をキャッチャーと呼ばれるゴールに向かって投げ入れてスコアを競い合うゲームです。子ども達はこの競技をプレイすることにより、お互いのプレイを励まし合ったり、ディスクの上手な投げ方を友達にアドバイスしたり、またルールに従ってゲームを楽しむ事などを経験します。新型コロナウイルスの影響により子ども達が体を動かして遊ぶ機会は激減しておりますが、「放課後かまくらっ子」(*)で元

気に遊んでいる子ども達の姿を見ると溜まったエネルギーを十分に発散できているように感じます。

子ども達のまわりでは現在オンラインによる授業やゲームが多々取り入れられておりますが、人と人が直接触れあうことができるオフラインの活動が子ども達の成長に繋がっていることを痛感させられます。



※ディスクゴルフの様子

※放課後かまくらっ子とは、全ての児童が放課後の時間を安全・安心に過ごすことができ、多様な体験・活動を行うことができる事業です。

【第4回】事務局が行く

ちょっと気になる収録現場！「第3回青少年指導員研修会」

神奈川県青少年指導員機関紙「つばさ」事務局

令和3年度の青少年指導員研修会は、収録での開催と聞き、第3回青少年指導員研修会の収録現場となる横浜市西区の紅葉ヶ丘にある県立青少年センターにお邪魔しました。



●関係者に見守られながらの収録

この日の収録は、①2週間前からの健康チェック表の提出、②朝夕の検温、③空間の消毒、④使い捨て手袋の活用で感染者ゼロの野外教育事業所ワンパク大学代表三好利和先生による「自然体験活動におけるリスクマネジメント」。

自然体験活動におけるリスクマネジメントは、企画段階でのリスクの要因となるハザードをあらかじめ見つけ出しているか。そして、活動スタート後は、ハザー

ド（リスク要因の）コントロールができなくなっている状態を見逃さないことが、重要であるとのことです。

なにかと、楽しいから、喜んでくれるからといった気持ちから活動が企画されることが多い中、改めてリスクコントロールをする大切さを教えていただけた興味深い講演でした。



●「体験活動は不要不急な行動ではない！」と語る三好先生

野外教育事業所ワンパク大学では、新型コロナウイルス対応ガイドラインをホームページに公開しています。

URL：<https://wanpakudaigaku.jp/guideline-for-covid-19/>

☆今年度の青少年指導員研修会で御講演いただいた講師を御紹介

第1回青少年指導員研修会

令和3年6月1日講演

認定NPO法人オーシャンファミリー
海洋自然体験センター代表
海野 義明 氏



第2回青少年指導員研修会

令和3年9月29日講演

認定NPO法人湘南自然学校
チーフディレクター
原田 順一 氏



県からのお知らせ

かながわ子ども・若者総合相談LINE

子ども・若者が有する様々なお悩みに関する御相談を
「LINE(ライン)」でお受けしています。

お気軽に御相談ください。

【対象】

県内の子ども・若者（おおむね39歳まで）及びその御家族等周りの方

【相談時間】

相談時間につきましては、

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t7e/kowaka/201909kowakalinesoudan.html>

を御覧ください。



日本の季節を美味しく楽しく遊文化

あそぶんか

神奈川県立青少年センター 指導者育成課

四季を通じた日本の伝統文化を理解し、地域行事に取り入れてみてはいかがでしょうか。

神奈川県青少年指導者養成協議会では、毎年専門部会を設置し、2019年度は「つくってあそぼう！ 子どもと作る手作りおもちゃ」、2020年度は「5つのステップでわかるチラシ作成ヒント集」という冊子を作成し、地域の青少年支援・指導者や行政職員等に活用していただいています。

2021年度は、標記のタイトルの成果物を青少年センターのホームページに3月中に掲載し、広く活用していただけるようにします。

内容は子どもたちに日本の伝統文化を伝え、地域で楽しく遊んだり、美味しく食べたりするというものです。

例えば、1月の遊びでは「天下一こま回し大会」という大山ごまを使った遊び方について紹介し、4月の食べ物では「手軽にお花見！桜色マドレーヌ」のレシピを紹介しています。月ごとに遊びと食べ物を紹介していて、オリジナルなものもたくさん掲載しています。

ぜひ一度以下の2次元コードを利用してURLにアクセスしてみてください。



HPはこちらから

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ch3/r1craft.html>

連絡先

青少年センター 指導者育成課

TEL 045-263-4466

(月曜休館)





(令和4年4月～令和4年9月の予定)
 ※新型コロナウイルス感染症の影響により内容の変更や中止となる場合がございます。

◆横浜市

<保土ヶ谷区>

- 【実施主体】保土ヶ谷区青少年指導員協議会
- 【事業名称】第24回保土ヶ谷区手作り紙ヒコーキ大会
- 【日時】令和4年7月31日(日)
- 【場所】保土ヶ谷スポーツセンター

<戸塚区>

- 【実施主体】戸塚区青少年指導員協議会
- 【事業名称】第27回チャレンジフェスティバル
- 【日時】令和4年5月22日(日)
- 【場所】戸塚小学校校庭・体育館※雨天時は体育館のみ実施
- 【内容】自己ベストを目指して、幅跳びやスリッパ飛ばしなど20種目に挑戦する小学生向けイベントです。(参加無料)

◆横須賀市

- 【事業名称】青少年育成推進員・新任者研修会
- 【内容】一期二年任期の初年度(令和4・5年期は令和4年)4月に横須賀市青少年会館にて開催予定

◆厚木市

- 【事業名称】第25回少年少女フェスティバル
- 【日時】5月15日(日) 11:00～12:30、13:00～14:30(2部制)
- 【場所】ぼうさいの丘公園(多目的広場ほか)
- 【内容】各地区の青少年指導員がブースを出展し、子ども達がウォークラリーや遊び道具作りを体験します。
※事前申込制

◆綾瀬市

- 【主催】綾瀬市
- 【主管】綾瀬市青少年育成員協議会
- 【事業名称】第30回綾瀬市ふれあい探検ウォークラリー大会
- 【日時】令和4年7月中旬～8月上旬
午後4時スタート(予定)
- 【場所】綾瀬市役所南側広場発着2コース(予定)
- 【内容】市内在住・在勤・在学の方を対象とし、クイズやアトラクション挑戦しながら市内を歩きます。

優良図書について

心の成長期にある青少年が優良な図書に触れることは大切です。県では、青少年の皆さんに読んでいただきたい本を、「神奈川県児童福祉審議会推薦優良図書」として、審議を経て選出しています。

令和3年度は、読書推進会や個人から推薦依頼を受けた図書について、「児童に適切な文化財であって、児童の道徳、情操、知能、体位等の向上に寄与し、その生活内容を豊かにすることにより、児童を社会の健全な一員とするために積極的な効果をもつもの」などの推薦基準に基づき2月3日に審議した結果、幼児以上対象13冊、小学校低学年以上対象6冊、小学校中学年以上対象9冊、小学校高学年以上対象8冊、中学生以上対象6冊の合計42冊が選出されました。

選出された図書については、県内の幼稚園や小中学校、図書館等にポスター等で周知を図るほか、県のホームページにも情報が掲載されていますので、是非、御覧ください。

機関紙「つばさ」第27期編集委員 5名

(敬称略)

- 小川 江一 (横浜地域) 渡辺 孝一 (川崎地域)
- 齊藤 一城 (相模原地域) 向笠 伸一 (県西地域)
- 岡田 幸次郎 (湘南地域 / 担当理事)

編集後記

つばさ編集委員 齊藤 一城

コロナ禍の対応も2年に及ぼうとしており、青少年指導員の活動が困難な日々が続いています。

「つばさ」も昨年に引き続き、今回は65・66号の合併号となりましたが、今回は各地域の皆さんに地域活動報告を募ったところ、たくさんの記事をいただくことができ、活気ある誌面となっていることと思います。

各地域での様々な取り組みを伺い知ることができ、皆さんの頑張りには希望が持てました。

※「つばさ」は県のホームページからも見ることができます

